

International University of Health and Welfare
「共に生きる社会」の実現をめざして

IUHW

2021.4.28発行

vol.125



留学生「誓いのことば」(成田キャンパス入学式)

令和3年度 入学式

令和2年度 学位記授与式

新任のごあいさつ



医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。

国際医療福祉大学

式辞

学校法人 国際医療福祉大学

高木 邦格 理事長

4月4日 成田キャンパス入学式より

(国際医療福祉大学成田病院・成田国際ホールにて開催)

新入生のみなさま、ご入学おめでとうございます。入試の難関を突破されたみなさまを国際医療福祉大学に迎えることができ大変うれしく思います。

本来であれば、これまでみなさまを支えてこられた保護者のみなさまも入学式の参加を楽しみにされていたと思いますが、大変に残念ですが、なお新型コロナウイルス感染症の状況に鑑み、学生のみなさまご本人のみでの開催となつたことをお詫び申し上げます。

本日の入学式会場である国際医療福祉大学成田病院は、予定より前倒して昨年3月に開院し、感染症や呼吸器内科の医師をはじめ、看護師、臨床検査技師など、多数の医療スタッフが協力して、コロナ患者さまの受け入れなどにあたってまいりました。1年が経ち、現在では本学の成田病院でコロナ患者受け入れ病床を71床、グループ全体で175床を確保しており、PCR検査もグループで1日合計1000件対応が可能になっています。このたびの新入生の学部生562人にPCR検査を実施し、全員が陰性であることを確認したうえで、このように入学式を開催いたしました。

また、本日はお忙しいなか、成田市の小泉一成市長にご臨席賜りました。いつも大変なご尽力をいただきており、昨年はコロナ対応を行う本学の成田病院に対して多額の助成金や職員に対する援助もいただきまして、この場をお借りして、御礼申し上げます。

ご入学されたみなさまには全国に多数の仲間がいます。大田原、成田、東京赤坂、小田原、大川の5キャンパス合計で2133人の学部生と、360人の大学院生を新たに迎えました。全国で約10,000人の学生が在籍しており、また28,000人を超える卒業生が医療福祉の現場で活躍されています。本学のグループ発祥は1910年、福岡県大川市の高木病院から始まりましたが、現在では全国に約60の医療福祉施設があり、約12,000人の職員がおります。



1995年に日本初の医療福祉の総合大学として栃木県大田原市に開設した国際医療福祉大学の建学の精神は「病める人も、障害を持つ人も、健常な人も、互いを認めあって暮らせる『共に生きる社会』の実現を目指して」です。将来、医療福祉に携わるみなさまには、弱者に対する思いやり、人に対する尊敬などを忘れない、全人的な医療人になってほしいと願っています。

病院経営者の立場として本学の卒業生を見ていると、バランスがとれて責任感がある立派な職業の方が多い印象を受けます。これから4年間もしくは6年間、いわゆる技術的な勉強だけでなく、文学、政治、経済などの豊かな教養を身につけ、スポーツや課外活動を通じて人間形成につながるような、さまざまな体験から、多くのことを学び、感じ取って過ごしていただきたいと思います。

国際医療福祉大学が発展してきた理由の1つとして、豊かな実習環境が挙げられます。そのなかでも、総工費800億円をかけた本学成田病院は、アジアを代表する世界的な拠点病院をめざしています。これから2~3年かけて642床のフル稼働していく予定ですが、海外の大学・医療機関との連携する国際遠隔診断センター、国際臨床感染症センター、千葉県では数台しかないトモセラピーを導入した、がん放射線治療センター、遺伝子診断センターなどを開設するほか、日本最大級の予防医学センターを整備しています。最新鋭の医療機器のほか、プール、ジム、サウナなども併設しています。さまざまな施設を備えており、みなさまの教育、実習環境もさらに充実していくと言えます。

大田原キャンパスには、特別養護老人ホームや身体障害者の支援施設、重症心身障害児の支援施設、児童心理治療施設など、急性期の病院だけでなく、さまざまな形態の施設がそろっています。成田キャンパスでも将来的にはそういう介護福祉施設の整備をしていく、アジアを代表する国際医療拠点を作っていくことも課題だと思っています。

学生生活を送るうえでぜひお願いしたいのは、少しでも体調が悪かつたら登校せずに、すぐに大学へ連絡をしてPCR検査を受けて、陰性を確認してから復帰するようにしてください。コロナも今後、全員がワクチン接種をすれば、少しずつ終わりが見えてくると思います。健康に気をつけて、これから楽しい学生生活を送り、必ず国家試験に受かり、素晴らしい医療人になることを祈念申し上げて、私の挨拶とさせていただきます。

成田キャンパス

新入生595人を迎えた成田キャンパスの入学式は、4月4日、開院から2年目に入った国際医療福祉大学成田病院で行われた。コロナ禍が続くなか、入学式は新入生へのPCR検査を事前に実施したうえ、初めて収容定員2000人を誇る成田国際ホールを会場として、密を避けての実施となった。

新入生の「誓いのことば」として、成田保健医療学部医学検査学科1年の田村真紀さんは、「この4年間でチーム医療の真髄を学び、人の命、人の人生に直接かかわる責任の重さを自覚して生命を尊重できる学生になります」と抱負を述べた。

続いて、留学生代表として檀上に立った医学部医学科1年、グンセレイ・ワタナーさん(カンボジア出身)は、日本留学の夢を母の励ましで実現し、来日後は本学関係者の支援で日本語が上達した経験を流るように語り、「国際医療福祉大学は第二の家と呼べる場所です」と語った。その上で、「将来、世界を舞台に活躍できる医師になり、恩返しできるよう努力します」と決意を語った。

入学式には医学部、成田看護学部、成田保健医療学部、大学院の新入生をはじめ、4月に開設された臨床工学特別専攻科の第1期生が出席した。

(広報 山本秀也)



●誓いのことばを述べる田村さん



●記念撮影を行う新入生

大田原キャンパス

大田原キャンパスでは4月3日に、新型コロナウイルス感染症対策のため午前と午後の2部制で入学式を行い、各学部を合わせ881人と大学院生42人が入学した。

午前の第1部は保健医療学部の新入生のみで実施し、大友学長の式辞と来賓の津久井富雄大田原市長から祝辞を受け、新入生代表として保健医療学部看護学科の安藤愛美さんが誓いのことばを述べた。

午後の第2部は医療福祉学部、薬学部および大学院の新入生で実施し、大友学長と三浦総一郎大学院長が式辞を述べ、学部新入生を代表して薬学部薬学科の臼井帆ノ佳さんが、「世界に誇れる医療福祉従事者となるよう日々の勉強に励んでいきたい」と誓いのことばを述べた。また、大学院新入生を代表して、本学の看護学科教員である、保健医療学専攻看護学分野の田代恵美助教が誓いのことばを述べた。

式のなかで大友学長は、新型コロナ感染拡大のなか、受験勉強に取り組んできたことに対しての労いの言葉と、歓迎と期待のメッセージを新入生に向けて述べられ、新入生たちも真剣な眼差しで、学長の言葉を心に刻むように聞き入っていた。

昨年は新型コロナ感染拡大により入学式は中止となり、2年ぶりの入学式となつたため、新入生だけでなく教職員にとっても感慨深い式となつた。

(入試広報室 石田豊)



●新入生代表の臼井さん



●体育館で行われた入学式

Entrance Ceremony

特集 令和3年度入学式

●小田原キャンパス ●東京赤坂キャンパス
●大川キャンパス ●塩谷看護専門学校

小田原キャンパス

小田原キャンパスでは、小田原保健医療学部・大学院の入学式を4月5日、城内校舎で行った。学部新入生214人(看護学科87人、理学療法学科85人、作業療法学科42人)と小田原・熱海キャンパスに所属する大学院新入生19人が入学した。

大友邦学長、三浦総一郎大学院長の式辞の後、学部新入生を代表して、池田恵生さん(作業療法学科)、大学院新入生を代表して、古館卓也さん(博士課程)が誓いのことばを述べた。

池田さんは、「初心を忘れず、また、学べるということのありがたさ、先生方や家族など、周りの方々への感謝の気持ちを忘れることなく、夢をかなえる努力をしてまいります」と誓った。

入学式終了後は、雨予報にも関わらず好天に恵まれたので、中庭に出て学科ごとに写真撮影を行った。

主に1年生が過ごす城内校舎での写真撮影は思い出に残る1枚となるだろう。

(総務課総務係
村坂美希)



●新入生誓いのことば

東京赤坂キャンパス

東京赤坂キャンパスでは4月2日、入学式が行われ、赤坂心理・医療福祉マネジメント学部に126人(心理学科62人、医療マネジメント学科64人)・大学院に220人が入学した。大友邦学長は式辞で「本学部では全学年が揃う記念すべき年となった。密度の濃い時間を過ごし、生涯の財産となる人的ネットワークを構築してほしい」と述べ、三浦総一郎大学院長は「生涯にわたつて取り組む大きなテーマを見つけ、人との交流を通じて、人生の貴重な1ページとしてほしい」と述べた。

学部新入生を代表して幸田愛子さん(医療マネジメント学科)が「コロナ禍、高齢化社会のなかで保健・医療・福祉は欠かせない

分野。知識、技術を学び、将来現場で活躍したい」と誓いのことばを述べた。

また、大学院新入生代表の玉井三希子さん(医学研究科医学専攻)は「患者ニーズの多様化などから医師以外の医療職を含めたチーム医療の大切さを実感している。新たな目標に向かって精進したい」と決意を語った。

(広報部 齊藤未来)

●会場へ向かう新入生



●講堂で開催された入学式

大川キャンパス

4月7日、大川キャンパス講堂において令和3年度入学式が行われた。

新型コロナウイルス感染拡大防止のために保護者の参加は見送り、教職員と新入生のみで執り行われた。

初めに大友邦学長、三浦総一郎大学院長、高木邦格理事長が式辞を述べた。続いて、来賓を代表して、倉重良一大川市長から祝辞をいただいた。

これを受け、学部新入生を代表して池田ことりさん(薬学科)、大学院生を代表して平賀勇貴さん(作業療法学分野・博士課程)がそれぞれ誓いのことばを述べた。

最後に、高木理事長より檀上の教員が紹介され、式は満りなく終了。例年だと式終了後に「来賓懇親会並びに大学院祝賀会」「学科別懇親会」「大学院オリエンテーション」などが開催されているが、今年は感染拡大防止のため割愛された。

昨年は新型コロナウイルス感染拡大防止のために入学式が中止となつたが、今年の新入生は入学式が実施されたため、良い思い出になつてくれることを願つている。

(入試学生募集課 井上雅博)



●式辞を述べる大友邦学長

塩谷看護専門学校

塩谷看護専門学校では4月7日、本校講堂で入学式を執り行い、新たに41人が入学した。

式では、岩本俊彦校長が「私たちは同じ目標に向かって進むチームです。共に喜び、共に苦しみ、青春を謳歌しながら最後に全員で喜びを分かち合いましょう。夢は努力した人間にのみ実現する特権です。友と夢を分かち合い、助け合って、夢に描いた将来を現実のものとしましよう」と激励の言葉を贈った。

続いて、在校生代表として、3年生の月井葵さんが「これからのお出会いを大切にし、自分の理想とする看護師を目指して、共に頑張りましょう」と述べた。これを受けて、新入生代表の蘇武美咲さんは「仲間と国家試験合格という同じ目標を達成するために日々精進し、互いに支え合いながら実りのある学校生活を送りたい」と決意を語った。

教職員も学生と同じ気持ちで、これからの大好きな3年間を力強く、共に前へ進みたい。

(事務部 田島鮎子)



●誓いのことば

令和3年度 学部・大学院・特別専攻科 新入生概要

学部新入生概要					
キャンバス	学部	学科	入学者数		
大田原	保健医療学部	看護学科	120		
		理学療法学科	102		
		作業療法学科	81		
		言語聴覚学科	81		
		視機能療法学科	52		
		放射線・情報科学科	115		
		学部合計	551		
	医療福祉学部	医療福祉・マネジメント学科	142		
	薬学部	薬学科	188		
	大田原キャンパス合計		881		
成田	医学部	医学科	140		
	成田看護学部	看護学科	108		
	保健医療学部	理学療法学科	87		
		作業療法学科	43		
		言語聴覚学科	43		
		放射線・情報科学科	54		
		医学検査学科	87		
		学部合計	314		
	成田キャンパス合計		562		
	東京赤坂	赤坂心理・医療福祉	62		
		マネジメント学部	64		
	東京赤坂キャンパス合計		126		
小田原	小田原	看護学科	87		
	保健医療学部	理学療法学科	85		
		作業療法学科	42		
	小田原キャンパス合計		214		
学部合計					
福岡					
大川	保健医療学部	理学療法学科	61		
		作業療法学科	40		
		言語聴覚学科	42		
	学部合計		227		
福岡薬学部					
大川キャンパス合計					
2133					
大学院新入生概要					
課程	研究科	専攻	入学者数		
修士課程	医学研究科	公衆衛生学専攻	21		
		保健医療学専攻	171		
	医療福祉学研究科	医療福祉経営専攻	46		
		臨床心理学専攻	21		
博士課程	薬学研究科	生命薬学専攻	1		
	修士課程合計		260		
	医学研究科	医学専攻	25		
	医療福祉学研究科	保健医療学専攻	70		
大学院合計	薬学研究科	医療・生命薬学専攻	5		
	博士課程合計		100		
360					
特別専攻科新入生概要					
臨床工学特別専攻科			合計 3		

International University of
Health and Welfare

IUHW CONTENTS vol.125 April 2021

2 特集 令和3年度入学式

5 高木邦格理事長式辞

成田キャンパス／大田原キャンパス／小田原キャンパス／東京赤坂キャンパス／大川キャンパス／塩谷看護専門学校
学部・大学院・特別専攻科 新入生概要

6 新任のごあいさつ

7 鈴木康裕 副学長／大谷俊郎 国際医療福祉大学市川病院病院長／横井宏佳 福岡山王病院病院長／益子雅明 おおたわら風花苑施設長／小林雅彦 医療福祉学部長／三浦裕也 薬学部副学部長／山本康弘 医療福祉学部医療福祉・マネジメント学科長／上田克彦 成田保健医療学部放射線・情報科学科長／田中秀一 赤坂心理・医療福祉マネジメント学部医療マネジメント学科長／熊谷たまき 小田原保健医療学部看護学科長

8 12 令和2年度学位記授与式・卒業生特集 大田原キャンパス／成田キャンパス／小田原キャンパス／福岡・大川キャンパス／大学院／塩谷看護専門学校／卒業生総代／学長賞／大学院長賞／博士課程修了者・論文博士合格者一覧

13 15 トピックス 成田病院開院1周年／田村雄一教授、不整脈の診断システム開発で最優秀賞／シミュレーション教育「COVID-19陽性確定の救急患者受け入れ対応」を実施／シンガポール・ナンヤンポリテクニック看護学生の研修をオンラインで開催／臨床工学特別専攻科がスタート／ミャンマー初の作業療法士が誕生／2020年度国家試験結果

16 17 キャンパスレポート 大田原 コロナ禍で苦しむ留学生に食糧支援／初の試み「介護福祉コースがわかる説明会」オンラインで開催
成田 外国人留学生の実務、安全知識で講習聞く

小田原 オンラインで就職対策講座開催／衛生委員会・防災委員会主催の研修会を開催

赤坂 日本災害医学会総会・学術集会を開催

大川 留学生スピーチコンテストを初開催 大川シネマホールで

18 19 施設インフォメーション 国際医療福祉大学病院／塩谷病院／三田病院／熱海病院／成田病院／市川病院／赤坂山王メディカルセンター／サポートハウス那須

20 キャンパスプラス1 クラブ・サークル紹介 ポランティア部(大川キャンパス)

副学長

鈴木 康裕

慶應義塾大学医学部卒、医学博士。WHO局長、栃木県保健福祉部長、厚労省研究開発振興課長、老人保健課長、医療課長、防衛省衛生監、厚労省技術総括審議官、保険局長、医務技監を歴任。



このたび副学長を拝命いたしました。昨年の8月までは厚生労働省で医務技監を3年間務めており、厚労省の新型コロナ感染症対策推進本部事務局長も兼務しておりました。

本学は、保健・医療・福祉の総合大学として、「チーム医療・チームケア」や「国際性」をめざし、充実した教授陣と施設内容で屈指の国家試験合格率を誇っていると理解しています。

また、40年ぶりに日本で医学部を新たに開設し、英語による教育や海外における臨床実習など、常に新たな地平線を切り開いていることはよく知られています。

私がめざしたいのは、研究開発力でも本学の強みを生かし、優秀な卒業生を輩出するのみならず、日本の、いや世界でも有数の優れた大学として知られ、広く諸外国や産業界とも連携して我が国の関連産業の強固な礎となることです。

1962年に米国の故・ケネディ大統領は当時のソ連がキューバにミサイルを持ち込んだ際に、「中国語ではこれを危機（「危」）と「機会」の「機」と書くらしい」と喝破したといいます。危機を教訓として米国の防衛力を再度見直そうという趣旨だったようですが、我が国も今回の新型コロナ感染症に際して経験したさまざまな教訓を糧に国家としての対応を強化すべきですし、本学も、今後生ずるかもしれないさまざまな課題を、教職員一同、心をあわせて乗り越え、進んでいけるような環境づくりを心かけたいと思います。

浅学非才の身の上ではありますが、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

おおたわら風花苑 施設長

益子 雅明

武藏大学人文学部(英米文学専攻)卒。大学卒業後、栃木県公立小中学校教員として36年間勤務。その後、2001年から06年までの6年間、指導主事、管理主事として教育委員会に勤務。2003年大田原市立大田原中学校長を最後に退職し2010年4月おおたわら風花苑副施設長を経て現職。



このたび、特別養護老人ホーム「おおたわら風花苑」の施設長を拝命いたしました。本施設には昨年4月に入職し、1年間副施設長として勤務してきました。昨年度、当施設に入職するまでは、教育現場において本地区の児童・生徒の教育一筋で仕事をしてきたため、「当施設での自己の職責を果たせるのか…」、不安でいっぱいだったことをまるで昨日のことのように思い出しています。

さて、今まさに時代は「少子高齢化社会」、「人生100年時代」を迎え、今後ますます福祉分野の活動の活性化が期待されるることは、疑いのないことだと感じています。当施設は、常に時代のニーズや地域の願いに応えられるよう、職員一丸となって尽力していくことこそ与えられた使命と思っています。今後とも、どうかご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。



国際医療福祉大学市川病院 病院長

大谷 俊郎

慶應義塾大学卒、医学博士。英国リーズ大学留学。慶應義塾大学看護医療学部、同大学院健康マネジメント研究科の教授を兼務。医学部整形外科、医学部スポーツ医学総合センターの教授を担当。



このたび、国際医療福祉大学市川病院の病院長を拝命いたしました。私は、膝関節外科とスポーツ医学を専門とする整形外科医で、臨床では関節鏡手術と人工関節手術を、研究では関節のバイオメカニクスを専門としております。直近の約15年間は看護医療学部と健康マネジメント研究科の教授を兼務してまいりました。

市川病院は、急性期、回復期、療養型のそれぞれ独立した3つのリハビリテーション対応病床を擁し、2020年には神経難病センター、糖尿病・内分泌代謝センターがオープンいたしました。また、人工透析センター、予防医学センター、デイケアセンターなどのセンター医療も充実しております。

都心と成田の中間に位置する市川にあって、成田病院、三田病院とも連携しながら、地域の皆様のニーズに広くお応えすることをめざしております。

福岡山王病院 病院長

横井 宏佳

金沢大学医学部卒。日本心血管インターベンション治療学会副理事長・CVIT専門医、日本心臓リハビリテーション学会理事・心臓リハビリテーション指導士、日本フットケア・足病医学会理事、日本脈管学会理事。



このたび、福岡山王病院病院長を拝命いたしました。福岡山王病院は、専門性の高い各診療科目とセンター方式による最新治療はもとより、予防医学、リハビリテーションにも注力し、「常に患者様の立場に立った医療」の実現に取り組んでおります。私は長年カテーテルを用いた心臓血管治療、新規医療機器開発に関わってきました。最近ではロボットPCIの導入に取り組んでおります。より良い医療機器ができるだけ早く患者様に届けるためには産官学の連携は不可欠であり、グループと連携して新たな挑戦ができればと考えております。地域の方々の健康をお守りするため、地域の医療機関との連携を大切にするとともに、アジアの玄関口・福岡市にふさわしい世界に目を向けた病院づくりを積極的にすすめてまいりますので、今後ともご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。

医療福祉学部 学部長

小林 雅彦

日本社会事業大学大学院修士課程修了（社会福祉）。全国社会福祉協議会、厚生労働省地域福祉専門官等を経て本学着任。文部科学省検定教科書「社会福祉基礎」執筆者（共著）。



この度、医療福祉学部長を拝命いたしました。2002年に本学に着任し、在職20年目になります。微力ですがこれまでの経験を生かし誠心誠意学部長職に邁進する所存です。

医療福祉学部は、医療経営管理学科と医療福祉学科が2009年に一体となってできた医療福祉・マネジメント学科1学科のみで構成されています。1学科ではありますが、5つのコースがあり、福祉系・医療経営系の幅広い学びと、多様な資格を取得できることが特長です。また、そのために、多彩な履歴と専門性を持つ多くの優秀な教員がいます。

今後とも、本学及び本学部発展のため学科長、副学科長を始めとして全教員一丸となって歩んでいきますので、皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

医療福祉学部 医療福祉・マネジメント学科 学科長

山本 康弘

大阪府立大学大学院博士前期課程修了。国立医療・病院管理研究所病院管理専攻科修了。国際医療福祉大学大学院博士課程修了（博士）。診療情報管理士指導者。国立病院勤務を経て2005年本学着任。診療情報管理士教育統括責任者。



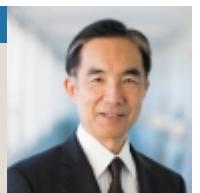
このたび、医療福祉・マネジメント学科長を拝命いたしました。この学科は1997年日本で初めて医療経営を学ぶ大学として大田原キャンパスに医療経営管理学科が発足し、これを受け継ぐマネジメント系と福祉系の5つのコースから構成されています。

今一度原点に立ち返り、「医療も福祉もマネジメントもわかる人材の育成」という方針のもと学科の運営に、そして診療情報管理士教育統括責任者として大田原と赤坂の2つの学科における診療情報管理士受験指導に全力を尽くす所存でございます。今後とも皆様方からのご支援、ご指導の程、よろしくお願ひ申し上げます。

赤坂心理・医療福祉マネジメント学部 医療マネジメント学科 学科長

田中 秀一

慶應義塾大学経済学部卒。読売新聞社に入社し、医療情報部長（現医療部）、社会保障部長、論説委員を歴任。「国内初の卵子提供による体外受精」の報道で新聞協会賞。2019年、本学医療福祉学部長。



赤坂心理・医療福祉マネジメント学部医療マネジメント学科長を拝命しました。東京赤坂キャンパスは今年度、1期生が卒業する新たな門出の年になります。卒業生たちが社会でどう活躍していくか、真価を問われる段階を迎え、身の引き締まる思いがします。

病を得た人は質の高い医療を求めて病院に来ます。質の高い医療を提供するには、質の高い病院、組織でなければなりません。マネジメントは質の高い病院、組織を作る専門的な仕事です。そうした人材を育てるために微力を尽くしたいと思いますので、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

薬学部 副学部長

三浦 裕也

東北大学薬学部卒。東北大学大学院薬学研究科後期課程修了。アステラス製薬の研究室長、日本血液製剤機構では技術開発部長。青森大学薬学部教授転出後、学科長、学部長を歴任し、本学着任。



この度、薬学部副学部長を拝命いたしました三浦裕也と申します。

私にとって、教育・研究の環境がこれまでとは大きく変わりますが、次世代に通用する薬剤師の養成はどこにおいても求められることと考えています。昨年度の新型コロナウイルスの影響により、医療および教育環境が大きく変わってきています。これまで、こうだったからということが通じなくなり、未来を見据えて、課題に対処し、新たな未来を切り開いていく人材の育成が望まれています。その実現のために私ができること全てに全力で取り組む所存です。今後とも、ご指導、ご鞭撻賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

成田保健医療学部 放射線・情報科学科 学科長

上田 克彦

九州大学医療技術短期大学部卒、放送大学卒。山口大学医学部附属病院及び京都大学医学部附属病院放射線部診療放射線技師長、本学科副学科長を経て就任、現在日本診療放射線技師会会长を務める。



成田保健医療学部放射線・情報科学科長を拝命いたしました。3月までは副学科長として開設されたばかりの本学科の運営に携わってきました。まだ2年目の学科であり、未知数な部分も多いですが、「共に生きる社会」の建学精神を大切にし、多職種連携を意識できる学生を育成したいと考えています。大田原での歴史を引き継ぎながら医学部のある成田キャンパスの特長も生かし、教育・研究に活気ある学科になるよう精進したいと思います。日本診療放射線技師会長としての役割についても本学に最大限に還元できるようにいたします。

小田原保健医療学部 看護学科 学科長

熊谷 たまき

千葉大学教育学部卒、東京大学大学院医学系研究科修士課程・博士課程修了。順天堂大学医療看護学部・医療看護学研究科准教授、大阪市立大学医学部看護学科長・看護学研究科長などを経て本学に着任。



このたび、小田原保健医療学部看護学科長を拝命いたしました。新型コロナウイルス感染症の拡大により、医療に求められる役割はますます高度化・多様化してきております。社会からの要請に応えるべく高い専門性をもった看護職者を育成し、有為な人材を輩出するよう努めてまいります。また、本学が擁する3つの看護学科は、同じ教育理念・教育目標を掲げ、各学科の特色を生かした新カリキュラムでの教育が始まります。小田原の看護学科においても、より質の高い充実した教育を学生に提供するために、全教員で力を合わせ、本学の看護教育の発展に尽くしてまいります。今後とも、皆様のご指導、ご鞭撻を何卒よろしくお願ひ申し上げます。

大田原キャンパス 学位記授与式

大田原キャンパスの令和2年度学位記授与式が3月11日、春の息吹を感じられるような陽光の下で行われた。今年度の式典は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、午前と午後に分けた初の2部制とし、また昨年度に引き継いで来賓、保護者の出席を見合わせ、学生と教職員のみによる開催となった。

午前の部では、大友学長から卒業生総代の小松京香さん(理学療法学科)へ学位記が授与され、各学科の学長賞が発表された後、大友学長より式辞をいただいた。大友学長は、10年前のこの日、東日本大震災が発生し本学2年の女子学生が宮城県岩沼市の実家に帰省中、津波の犠牲になったことに言及。「震災を決して忘れない、そして復興のため本学学生はボランティアに参加してきた。職場での訓練や地域の防災プロジェクトがあれば積極的に参加してほしい」と呼びかけた。

続いて卒業生総代の小松さんが謝辞を述べ、「医療従事者としてこれまでに培った技術に最新の知識を身につけて難局を乗り越えていきたい」と決意を語った。

午後の部では、大友学長から学部卒業生総代の高橋健人さん(薬学科)へ、三浦総一郎大学院長から修了生総代の伊東岳さん(博士課程・薬学研究科)へ、それぞれ学位記が手渡された。

各学科の学長賞の発表後、大友学長、三浦大学院長の式辞の後、学部卒業生総代の高橋さん、大学院修了生総代の伊東さんがそれぞれ謝辞を述べた。高橋さんは自身が震災の被災地の宮城県石巻市出身であることに触れ、「大震災から10年という節目の日に卒業式を迎えたことは感慨深く、一生忘れぬ日となつた」と語った。伊東さんは「医療・福祉の各分野において、大学院で培った能力を生かし、自らの役割を果たしていきたい」と誓った。最後に大震災の犠牲者を悼み、1分間の黙祷を行った。

(総務課 川上二郎)



●笑顔あふれる晴れ姿

成田キャンパス 学位記授与式

前日の荒天が晴天に変わった3月14日、学位記授与式を挙行し、大友邦学長から成田看護学部生100人、成田保健医療学部生241人に、三浦総一郎大学院長から大学院生18人に学位記が授与された。大友学長は、「今日の強風を追い風とするたくましさをもって今後の人生を切り開いてほしい」と励ました。高木邦格理事長は、保護者やご家族のご臨席はかなわなかつたものの、「皆さんの晴れ姿を見ると、卒業式ができた本当によかったです」と述べるとともに、収束の見通せないコロナ禍での健闘と健康を祈った。総代の平沢佳与さんと修了生代表の磯部厚志さんが謝辞を述べ、磯部さんは、「人や社会に役立つ医療を提供することで日本や世界が抱える問題を解決し、『共に生きる社会の実現』に貢献できるよう、それぞれの道で指導的役割を担っていく覚悟です」と誓った。

(広報 金井雅之)



小田原キャンパス 学位記授与式

小田原保健医療学部・大学院の学位記授与式が3月12日に行われた。

この日、学位記を授与されたのは学部生188人(看護学科77人、理学療法学科85人、作業療法学科26人)大学院修了生21人(博士課程4人、修士課程17人)。

学部生総代として作業療法学科の山崎せんりさんに大友邦学長から学位記が授与された。三浦総一郎大学院長からは博士課程総代の野本義則さんに学位記が授与された。続いて各学科の学業成績最優秀者である山口明日香さん(看護学科)、藤田勇輝さん(理学療法学科)、山崎せんりさん(作業療法学科)に学長賞が授与された。



●祝辞を述べる守屋市長

大友学長、三浦大学院長、高木邦格理事長の式辞の後、来賓の守屋輝彦小田原市長から祝辞をいただいた。その後、卒業生全員への特別記念品として小田原名産のかまぼこ箱根寄木細工が卒業生を代表して理学療法学科の藤田勇輝さんに手渡された。最後に看護学科山口明日香さんの「卒業生謝辞」、修了生代表の大澤はるかさんの「修了生謝辞」で閉式となった。

(総務課 松本孝俊)

福岡・大川キャンパス 合同学位記授与式

福岡市百道浜の福岡国際医療福祉大学体育館で3月9日、福岡保健医療学部・福岡看護学部合同学位記授与式が執り行われた。学部生335人(看護学科102人、理学療法学科79人、作業療法学科39人、言語聴覚学科31人、医学検査学科84人)を代表し、看護学科の白土沙也香さんに、学部総代として大友邦学長より学位記が授与された。各学科の学業成績最優秀者である理学療法学科の今里彩伽さん、作業療法学科の笠絆香さん、言語聴覚学科の宮崎莉帆さん、医学検査学科の川村あみさん、看護学科の白土さんに学長賞が授与された。



●高木理事長による式辞

大友学長、三浦総一郎大学院長、高木邦格理事長からの式辞に続き、作業療法学科の笠さんの「卒業生謝辞」、修士課程保健医療学専攻臨床検査学分野の西之園栄さんの「大学院修了生謝辞」をもって閉式となった。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で短縮したプログラムでの実施となつたが、卒業生の晴れやかな姿を見ることができ、短い時間ながら思い出に残るイベントとなつた。

(入試学生募集課 井上雅博)



●会場にて記念撮影

東京赤坂キャンパスで3月13日、大学院学位記伝達式が行われた。感染症対策のため式典は簡略化され、博士・修士合わせて365人の学位授与者のうち、代表者への学位記伝達となつた。博士課程の小串健太郎さん、修士課程の岡林紀恵さん、岸田拓磨さんへ三浦総一郎大学院長より学位記が授与され、岡林さんと岸田さんには大学院賞も授与された。

三浦大学院長の式辞では、仕事や家庭を持ちながら学問との両立を果たした修了生への労いの言葉と、これからの方々へ激励の言葉が贈られた。多職種連携で臨むチーム医療でのリーダーシップの発揮を期待したほか、社会への責任や義務が生じ、プロとしての自覚や振る舞いが求められるとも述べられた。

式典後は、分野ごとに分かれて各自へ学位記、記念品の授与が行われ、恩師や仲間たちと記念撮影をするなど親交を深めていた。修了生の今後のさらなる活躍を職員一同願意いたい。

(事務部 井上大輔)

塩谷看護専門学校 卒業式

塩谷看護専門学校では3月3日、本校講堂で卒業式を執り行った。国際医療福祉大学の新井田孝裕副学長から式辞をいただき、37人の新たな門出を祝つた。式では、岩本俊彦校長が卒業生代表・青木玲七さんに卒業証書を手渡し、「切磋琢磨という言葉を思い出して、社会で活躍する看護師のプロになってください」と、はなむけの言葉を贈つた。その後、卒業生代表として高木理永さんが「看護師として人の命に携わっていくことへの責任の重さ・役割を強く感じ、その思いを忘れずに患者様と向き合つてください」と答辭を述べた。卒業生は気持ちを新たに、看護の道の第一歩を踏み出した。卒業生のさらなる飛躍と今後の活躍を教職員一同期待している。

(事務部 田島鮎子)



●答辭を述べる高木さん



●卒業証書授与

卒業生総代

大田原キャンパス
保健医療学部 理学療法学科
小松 京香

大学生活を振り返りますと、諸先生方には専門職としての知識や技術に留まらず、社会人や医療人としての心得など数多くのことをご指導いただきました。

また、ご指導いただいた先輩方、ともに多くの時間を共有したかけがえのない友人や後輩、そして今までずっと私達を暖かく見守り、支えてくれた家族には、深く感謝しております。

現在、世界は新型コロナウイルス感染拡大という危機に直面しています。医療従事者として社会に飛び立つ私達は、感染防止の最前線に立った際、これまでに培った知識と技術を再確認するとともに、最新の知識を身につけ、この難局を乗り切るために日々精進してまいります。



大田原キャンパス
薬学部 薬学科
高橋 健人

大学生活を振り返ると、6年という月日のなかで薬剤師として必要な数多くの知識や技能を学び、そのなかで人間として大きく成長することができました。この6年間、ご指導いただいた先生方、ともに支え合った友人、陰ながら見守ってくれた家族には深く感謝しております。

現在、世界は新型コロナウイルス感染症との戦いに直面しています。まだまだ未熟な私たちですが、医療現場の最前線でご活躍されている本学の先生方、先輩方のように、専門職としての自覚を持ち、率先して行動できるよう日々精進してまいります。

本日は東日本大震災から10年という節目の日です。宮城県石巻市出身の私が、今日この日に卒業式を迎えたことは感慨深く、一生忘れぬ日となりました。



成田キャンパス
成田保健医療学部 医学検査学科
平沢 佳与

多くの経験とかけがえのない人々との出会いに恵まれ、人間として大きく成長できた4年間でした。勉学や実習に励むなか、大変なこともたくさんありましたが、先生方や友人たちの言葉、そして家族の応援が何よりの励みとなりました。多くの方々の支えにより、晴れて卒業の日を迎えることができ、感



卒業生総代

謝申し上げます。先生方には、医療専門職に求められる知識や技術、志に留まらず、社会人としての心構えなどをご指導いただきました。同じ目標を持ち、4年間支え合ってきた友人たちとの思い出は一生の宝物です。

今後、医療の現場で働くことを考え、身の引き締まる思いですが、医療職としての責任と自覚を持ち、主体的に学ぶ精神を忘れずに、成長していきたいと思います。

小田原キャンパス

小田原保健医療学部 作業療法学科
山崎 せんり



大学で過ごした4年間は私にとって非常に充実し、学びの多い時間でした。基本的な知識や技術だけでなく、医療人としての心構えや患者様との関わり方などを学びました。初めは慣れない学修内容に戸惑いましたが、先生方のご助言や友人たちと協力することで乗り越えることができました。生活面では家族の支えがいつもあり、学習に専念できる環境を整えてくれました。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、実習や対面授業の中止など、学びの制約がありました。しかし、そのような制約があったことで、今まで自分がどれだけ周囲の方々に支えていただいているのかを実感することができました。これからはご支援いただいた方々への感謝を忘れず、大学生活を通して学んだことを生かして患者様の支援ができるよう最大限努力していきたいと思います。

福岡キャンパス

福岡看護学部 看護学科
白土 沙也香



期待と不安を抱えて入学してから4年が経ちました。この4年間は楽しいことだけではなく、大変なこともあります。“看護とは何か”、日々の授業や実習を通して学ぶことができました。また、先生方からは看護の専門知識や医療人として大切なことなど、多くのことをご指導いただきました。

学びを深めていかなくて自分の未熟さを痛感し、将来に不安を感じたこともありました。切磋琢磨した友人たち、陰ながら応援してくれた家族、温かく見守ってくださった先生方、職員の方のおかげで乗り越えることができました。深く感謝しております。

コロナ禍で医療現場は過酷な状況にあり、今後、多くの困難が待ち受けていることは思いますが、初心を忘れず、患者さんやご家族の方に真摯に向き合うことのできる看護師になりたいと思います。

学長賞

大田原キャンパス

卒業生総代
保健医療学部 看護学科
安保 春香



保健医療学部 作業療法学科
安久井 彩希



保健医療学部 言語聴覚学科
八百井 紀香



保健医療学部 視機能療法学科
伊藤 千容



保健医療学部 放射線・情報科学科
森 美咲



小田原キャンパス

卒業生総代
成田保健医療学部 医療福祉・マネジメント学科
中川 もも乃



卒業生総代
(10ページに掲載)

福岡キャンパス

卒業生総代
小田原保健医療学部 看護学科
山口 明日香

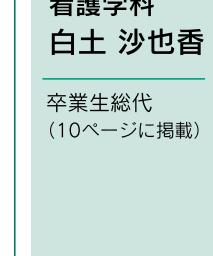


小田原保健医療学部 理学療法学科
藤田 勇輝



大川キャンパス

卒業生総代
福岡看護学部 看護学科
白土 沙也香



卒業生総代
(10ページに掲載)

福岡キャンパス

卒業生総代
福岡保健医療学部 理学療法学科
今里 彩伽



福岡キャンパス

福岡保健医療学部 作業療法学科
笠 杓香



福岡保健医療学部 言語聴覚学科
宮崎 莉帆



福岡保健医療学部 医学検査学科
川村 あみ



大学院長賞

医療福祉学研究科 博士課程
保健医療学専攻 臨床検査学分野
磯部 厚志

この度は、大学院長賞にご選出いただき、ご指導いただいた梅村創教授、大澤進教授、清宮正徳教授、国際医療福祉大学の先生方、ならびに研究にご協力いただいた全ての方に、厚く御礼申し上げます。

仕事と学業の両立は、時に試行錯誤と葛藤もありましたが、

医療福祉学研究科 修士課程
保健医療学専攻 看護学分野
岡林 紀恵

看護師として臨床での研究精度を高めるために大学院への進学を決めました。科目履修生の頃よりゼミに参加させていただき、研究を行う上で論文を正しく読み解くことの重要性を学びました。修士課程に入っ

医療福祉学研究科 修士課程
保健医療学専攻
生殖補助医療胚培養分野
岸田 拓磨

この度は栄えある賞を頂戴し光栄に思います。

大学院入学当初、指導教員である堤治教授から大学院長賞のお話は伺っており、受賞をめざして

2020年度 博士課程修了者・論文博士合格者一覧

【看護学分野】

- ・大関 裕子 看護師の勤務常リーダーシップ行動評価尺度の開発および勤務常リーダーシップ行動への影響要因
- ・美濃口 真由美 産後1ヶ月の初産婦の育児困難感尺度の開発および産後1ヶ月の初産婦の育児困難感にレジエンスが及ぼす影響
- ・横山 ひろみ 私立看護系大学教員の離職意向の影響要因
- ・奥平 寛奈 救急隊員のための周産期定期対応能力向上の教材開発と評価
- ・田辺 幸子 領域別看護実習不安評価尺度の開発と領域別看護実習の不安に影響する要因
- ・石井 美里 小学校低学年の子どもをもつ労働女性の子育て負担感尺度の開発

【助産学分野】

- ・吉田 静 子どもを喪失した父親が看護師に求めるケアに関する研究
- ・賴玉敏 台湾の高齢初産婦における育児自己効力感尺度の開発とその信頼性・妥当性の検討

【理学療法学分野】

- ・有本 邦洋 健常成人男子における寒冷昇圧試験時の昇圧反応の個体差－心拍変動解析と瞳孔反応による検討－
- ・大澤 はるか 大腿骨近位部骨折の特徴－静岡県A市の中基幹病院であるA病院に入院する高齢者を対象として－
- ・解 化龍 脳血管障害片麻痺患者における肩関節亜脱臼に関する研究－棘上筋厚の比率を用いた評価とその応用－
- ・張 明東 高齢者における転倒予測の評価に関する研究－歩行時踏診課題を用いて－
- ・羽田 圭宏 ハンドボール競技者国有の跳躍動作における床反作用点軌跡長と衝撃緩衝係数
- ・神山 真美 作業療法士・理学療法士に必要とされるエビデンシーバイリティの検討
- ・沢谷 洋平 Absolute reliability of pulse pressure measurement in young healthy adults and elderly patients with certification of needing long-term care or support
- ・鈴木 努 入院期心不全患者のGeriatric Nutritional Risk Indexと日常生活動作の関連要因の検討
- ・高島 恵 理学療法分野におけるリーダーシップ教育の提案
- ・渕地 望 男子大学生における血管内皮機能と身体活動量および拡張期血圧の関係
- ・劉 振 太極拳及び太極功夫扇での脈拍数を用いた運動強度の検証
- ・吉村 美香 介護保険施設における介護職員の介護作業関連性腰痛に関する現状調査－OWAS法を用いた作業姿勢評価分析－

【作業療法学分野】

- ・館岡 周平 在宅高齢者が健康支援を目的としたWebアプリケーションを利用するために必要な要素
- ・野澤 羽奈 皮膚侵害刺激時のラット・動物肛門反射における扁桃体中心核の閾値
- ・野本 義則 作業療法士養成専門学校における入学前教育の在り方
- ・田代 大祐 高齢者の3つの異なる排泄シミュレーション姿勢における呼吸機能と安楽性(Respiratory function and comfort levels in three different defecatory simulation postures in the elderly)

Topics トピックス IUHWグループにおける注目の出来事や話題を紹介します。

国際医療福祉大学成田病院 開院1周年

今年3月16日に、当院は開院1周年を迎えた。開院当初約870人であった病院スタッフは、外来・入院患者数の増加に伴い現在1,100人以上に達し、コロナ禍のなか、それぞれの現場で尽力している。昨年5月には、予防医学センターを開設。人間ドック・健診とともに、健康増進センターでのジム・プール・サウナなどの運営がスタートした。同年8月に地域の方を対象に始まった糖尿病教室は、多くの反響をいただき、今年4月には第6回を迎えることとなった。



●参加者が増え、国際ホールで開催している糖尿病教室

開院から半年過ぎた9月には診療体制もさらに充実してんかんセンターの新設をはじめ、その後も精神科病棟・小児科病棟など続々とオープンした。ちょうど1周年を迎えた翌日には、初のドクターヘリ離着陸訓練を実施し、災害時にも力を発揮できる迅速な初動対応をめざしている。



新型コロナウィルス感染症の蔓延により、当初の予定を前倒して開院した当院のみならず、グループ中の病院で医療資材が足りない状況に陥っていた。そんななか、開院まもない当院に地域の皆様や成田市、さまざまな企業からのご厚意が集まり、多くの医療資材をご提供いただいた。また、長引くコロナ禍で奮闘している最中には、成田市の小学校の生徒や教員の皆様からたくさんのお手紙が寄せられました。



●近隣の小学校からのメッセージの数々

ジをいたしたり、歌手や演奏家の方がボランティアで慰労コンサートを開催してくれたりなど、スタッフ一同とても励まされることが多かった。こうした皆様方のご支援のおかげで、何とか1周年を迎えることができたことを改めて感謝申し上げたい。

今後も地域医療に貢献していくことで皆様に恩返しができるよう、国内外の患者様のニーズに精一杯応えながら、職員一同邁進していきたいと考えている。

(国際医療福祉大学成田病院 広報室 七島寛子)

田村雄一教授、不整脈の診断システム開発で最優秀賞

人工知能(AI)を開発する優れたスタートアップ企業を表彰するコンテスト「HONGO AI 2020」(主催:HONGO AI事務局、共催:日本経済新聞社)の最終選考会が昨年12月4日に開催され、本学の田村雄一教授(医学部循環器内科、三田病院肺高血圧症センター)が代表を務め、不整脈の自動診断支援システムを開発する「カルディオインテリジェンス」(東京都港区)が最優秀賞のBEST AWARDを受賞した。

田村教授が率いるAI医療機器スタートアップの「カルディオインテリジェンス」は、心電図から不整脈の一種で脳梗塞の主原因である心房細動を予測、発見し医師の診断を支援するシステムを開発する。従来は発作時を捉えなければ診断できなかった心房細動を膨大な長時間心電図波形をディープラーニングで解析することにより、非発作時でも発作の兆候が検出できる。最終選考会に参加した14チームから選考委員の満場一致で選ばれた。新規性や社会貢献性の高さなどが評価された。

受賞の快挙に本学医学部の河上裕学部長は「今まで強く望まれてきた脳梗塞発症を予防する技術だ。AIスピタル化の方向性のなかで、田村教授らの今後の研究開発の発展を期待したい」と話している。

田村教授は今回の受賞を受け、「一番大事なのは現場で問題を解決したいというパッションや思い入れだと改めて感じた。実用化に向けて頑張っていきたい」と力を込めた。

コンテストを主催するHONGO AI事務局は2019年、東京大学がある東京都文京区本郷でAIスタートアップを支援する6社で設立。コンテストは優秀なAIスタートアップに光を当てるもので、今年で2回目。すでに多くのAIスタートアップが本郷に拠点を置いており、同事務局はシリコンバレーや深圳のように、本郷が世界に通用するブランドになることを期待しているという。



●最優秀賞を受賞した田村雄一教授(写真中央)

シミュレーション教育「COVID-19陽性確定の救急患者受け入れ対応」を実施

コロナ禍での学修環境の変化に、学生たちは本当にたくましく順応した。しかし、オンライン授業や病院・施設での実習の短縮などにより、戸惑いや将来への不安もあったことは想像に難くない。それでも数年後に臨床に立つ彼らは、新型コロナウイルス感染症に戸惑い、怯えるだけの立場ではない。正しい知識を持ち、最前線で闘う医療者と同等の感染対策を学ぶ必要がある。

そこで、2月18日、早期より新型コロナウイルス患者さんを受け入れている国際医療福祉大学成田病院の教育研修センターにて、「COVID-19陽性の救急患者受け入れ対応」という臨場感溢れるシナリオで、医学部・成田看護学部合同のシミュレーション教育を行った。こうした切迫した状況でこそ、医療チームは互いの職種の役割を理解し、コミュニケーションをとりながら一丸となつて医療を提供する必要がある。学生たちは感染防護具の着脱法や必要性に留まらず、各々の目線で対応を討論し、役割分担を行うことでチーム力も養った。感染症科医師の矢野晴美教授、救急医療部医師の志賀隆教授らの実践的な助言を受け止める眼差しは、すでに医療従事者の自覚に満ちていた。

参加学生からは、「患者情報を得てからケア開始までの時間のタイトさを実感し、準備を含む対応の知識と技術を身につける必要性を認識した」(看護学科3年 青木舞奈さん)、「学生のうちに緊迫した場面で多職種連携ができたことは貴重な経験となった」(看護学科2年 勝又彩花さん)などの声が聞かれた。

新型コロナウイルスに限らず、感染予防対策は医療者の基本となる。矢野教授はこれを機に、手指消毒のWHOの5つのタイミング(WHOの5moments)を実践する全学的プログラム "IUHWクリーン・ハンド" を開始したいと語った。

(成田看護学部看護学科助教 島田伊津子)



●より良い対応について討論しチーム力を養う



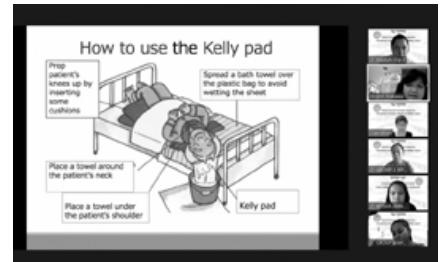
●感染防護具の必要性を自ら考えながら演習に取り組む学生

シンガポール・ナンヤンポリテクニック看護学生の研修をオンラインで実施

本学の協定校であるシンガポール・ナンヤンポリテクニック(NYP)の看護学生14人の研修を2月28日から1週間にわたりオンラインで実施した。

本学では2017年より毎年3月に同校の短期研修生を受け入れてきたが、2020年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で直前に中止、今年はオンラインでの開催となった。NYPとのオンライン研修は昨年9月に続き2回目。前回はNYPが、今回は本学がホストとなり、学生ボランティア(成田4人、大田原16人)や施設の職員、各キャンパスの教職員が協力し実施した。研修はWeb会議ツールを用いたリアルタイムのセッションとあらかじめ録画した動画の視聴を組み合わせたものだった。

「キャンバスリレー」ではリアルタイムで、赤坂心理・医療マネジメント学部心理学科の小堀修准教授、福岡保健医療学部作業療法学科の石橋英恵講師、成田看護学部の陳俊霞講師、武田彩子助教、国際担当職員が順にキャンパスを紹介した。また医療福祉学部医療福祉・マネジメント学科の小嶋章吾教授は「日本の医療制度」について、保健医療学部看護学科の近藤邦講師は「関連職種連携ワーク」についての講義を提供した。同じく看護学科の荒川博美准教授は「在宅看護」の講義のほか、患者さんを寝かせたまま洗髪できる「ケリーパッド」作りの体験も取り入れた。



●ケリーパッド作り体験



●作ったケリーパッドとグループ写真

「施設見学」では生活支援部の相馬康子副部長案内のもと撮影した、なす療育園、おおたわらケアセンター及び風花苑の動画を上映した。さらに「観光」も設定し、福岡看護学部の森山ますみ准教授らが福岡市内の見どころを紹介する動画を上映した。最終日には修了式と学生交流を実施。両校の学生混合の4グループがそれぞれ歌やクイズ、文化紹介等の出し物を行った。

今回のオンライン研修は海外渡航が難しいコロナ禍において、両校の学生や教職員にとって、異文化に触れる良い機会となつた。

(国際室 藤原志保)

臨床工学特別専攻科がスタート

1年コースで医療現場のエンジニア、「臨床工学技士」の資格取得をめざす臨床工学特別専攻科が4月、いよいよ成田キャンパスに開設され、第1期生を迎えて授業が始まった。

コロナ禍で注目を集めたエクモ(体外式膜型人工肺)など、最先端の生命維持装置を扱う臨床工学技士には、社会の期待が高まる。入学式(4月4日)に続いて、成田キャンパスWA棟内の教室で行われた顔合わせのミーティングでは、専任教員と学生が顔をそろえてそれぞれ自己紹介した。

特別専攻科の授業では、臨床工学概論、医用電子工学などの講義をはじめ、国際医療福祉大学成田病院の施設を使った実習が行われる。小野哲治准教授は、「1年は短い時間。厳しいこともあるだろうが、楽しく国家試験に向けてがんばろう」と述べ、学生を励ました。

(成田キャンパス広報 山本秀也)



●入学式後の顔合わせに臨んだ臨床工学特別専攻科の第1期生

ミャンマー初の作業療法士が誕生

2020年度の作業療法士国家試験に保健医療学部作業療法学科、ピヨー・タン・モーさん(ミャンマー出身、IUHW奨学生)が合格した。ミャンマー出身者としては初の作業療法士の誕生となった。

ピヨーさんは「すごくうれしい。学科の先生方と友人たちの支えがあったから合格できた」と喜びを語った。今後については「ミャンマーで作業療法士の仕事を広げたい」と目を輝かせた。



●ピヨー・タン・モーさん

2020年度 国家試験結果

2020年度の国家試験結果が発表され、本学では「視能訓練士」で7年連続合格率100%、「介護福祉士」で4年連続100%、「保健師」は小田原保健医療学部で7年連続100%を達成。そのほか、全学部全学科で全国合格率を大きく上回る結果となつた。

資 格	キャンパス	合 格 率
看護師	全 国	90.4%
	大田原	99.0%
	成 田	100%
	小田原	97.4%
保健師	全 国	94.3%
	大田原	98.3%
	成 田	100%
	小田原	100%
理学療法士	全 国	79.0%
	大田原	100% 合格者数:全国2位(88人)
	成 田	100% 合格者数:全国5位(83人)
	小田原	97.6% 合格者数:全国5位(83人)
作業療法士	全 国	81.3%
	大田原	98.6% 合格者数:全国1位(72人)
	成 田	89.7%
	小田原	100%
言語聴覚士	全 国	69.4%
	大田原	88.4% 合格者数:全国1位(61人)
	成 田	100% 合格者数:全国4位(39人)
	大 川	100% 合格者数:全国8位(31人)
視能訓練士	全 国	91.1%
	大田原	100% 合格者数:全国4位(36人)
診療放射線技師	全 国	73.7%
	大田原	90.8% 合格者数:全国1位(89人)
臨床検査技師	全 国	80.2%
	成 田	93.8% 合格者数:全国7位(75人)
	大 川	97.6% 合格者数:全国6位(82人)
社会福祉士	全 国	29.3%
	大田原	83.3% 合格者数:全国8位(55人)
精神保健福祉士	全 国	64.2%
	大田原	85.7% 合格者数:全国2位(30人)
介護福祉士	全 国	72.9%
	大田原	100%
薬剤師	全 国	68.7%
	大田原	98.6% 合格率:全国1位(※) ※受験者数100人以上の大学

大田原キャンパス

コロナ禍で苦しむ留学生に食糧支援

大田原キャンパスでは2月25日、西野須口一タリークラブ(鈴木明裕会長)の方々が来校し、留学生を対象とした食糧支援をいただいた。

コロナ禍で留学生は経済的にも心理的にも困難な状況にさらされた。仕送り額の減少や、アルバイト先の勤務時間を削られてしまつた者も多く、不安定な気持ちになってしまった留学生も見受けられた。

西野須口一タリークラブには留学生を対象とした奨学金制度があり、大田原キャンパスの留学生は長年、物心両面から手厚い支援を受けてきた。西野須口一タリークラブの方々が奨学生を通じて留学生の苦境を知ったことがきっかけで、この度の支援が実現した。留学生からは「大変な時期に、食べ物をいただいて本当にありがとうございます」と、感謝の声が上がった。

(国際室 森島公美)



●西野須口一タリークラブの皆様

初の試み「介護福祉コースがわかる説明会」オンラインで開催

医療福祉・マネジメント学科では2月27日、介護の学びに関心を持っている入学予定者を対象に「介護福祉コースがわかる説明会」をオンラインで開催した。

学修体系や実習、手厚い奨学金制度、さらに学生3人が「介護の魅力」を説明した後、個別相談を行い、「将来の活躍の場」「ダブル資格取得のための学修の工夫」「保育士資格も取得する方法」など、さまざまな相談に対応した。

今回、初めてのオンライン開催となったが、個別相談の時間を充分に取ることができ、遠方からも気軽に参加できるなどオンラインのメリットを生かした有意義な説明会となった。

※本学科には5コースあり、2年進級時にコースを選択するが、介護福祉コースは社会福祉士とのダブル資格取得をめざすために入学時に選択する。

(医療福祉・マネジメント学科教授 林和美)



●オンラインで開催した説明会の様子

成田キャンパス

外国人留学生の実務、安全知識で講習開く

多くの留学生が学ぶ本学で、外国人の在留資格にかかる実務知識は、国際部門の教職員に欠かせない。また、来日した留学生が安心して学ぶため、安全に関する知識を学ぶことも同様だろう。

こうした「必修科目」への理解を深めるため、教職員向けの入管実務と、留学生の安全に関するセミナーや講習会が、成田国際交流センター(NIC)を拠点にそれぞれオンラインでこのほど行われた。

「入管管理制度と手続きの概要及び留学生管理の留意点」と題したセミナー(3月17日)は、法務省入国管理局(現・出入国在留管理局)で長年実務に携わった成田キャンパスの鈴木祐一顧問



●入管事務を解説する鈴木祐一顧問

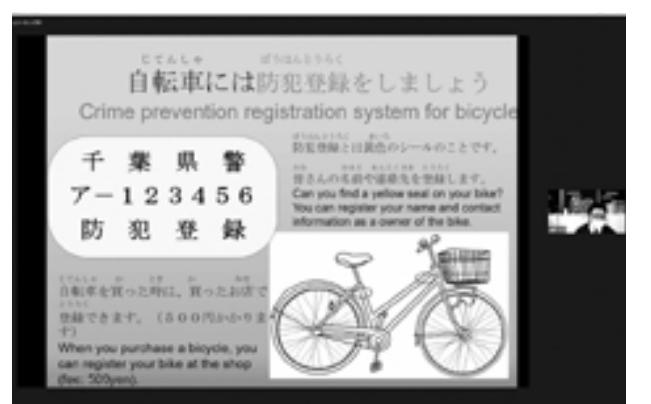
田キャンパスの鈴木祐一顧問を講師として行われた。

鈴木顧問は、各地の教職員50人あまりを前に、在留資格制度の枠組みから、留学生が休学した場合の注意点まで約1時間半にわたり解説した。質疑応答では、最近のミャンマー情勢を踏まえ、政情不安で留学生らが帰国できない場合の対応などが取り上げられた。

一方、成田キャンパスの留学生別科生らを対象とした「成田警察署安全講習会」(2月26日)では、本学職員の英語通訳で、成田警察署員が、「在留カードの携帯」や、「自転車の防犯登録」など、身近な安全の守り方を説明した。

治安を守る警察の役割は世界共通でも、留学生の母国であるアジア諸国では警察が強権を握る国がまだ多い。講演会では、日本独自の交番システムの紹介などをまじえ、市民に寄り添う日本の警察活動をアピールした。参加した留学生からは、「私たちの国の警察は日本の警察とは全然違っていた」「日本で安全に暮らすための方法を知る上でとても役に立った」といった評価が寄せられた。

(成田国際交流センター 山本秀也)



●自転車の防犯登録を促す成田警察署の講習

小田原キャンパス

オンラインで就職対策講座開催

小田原キャンパスでは緊急事態宣言の延長にともない、就職対策講座をオンライン形式で実施した。

まず、2月24日に看護学科を対象に実施。2年生対象の「就職対策(スタート)講座」では、2020年卒の就職活動を振り返り、21年卒では状況がどう変わったかについての説明や今後に向けてのアドバイスがあった。3年生に向けては、午前に「就職対策(実践)講座」を実施し、履歴書・面接対策などを行った。午後からは「関連病院説明会」に続いて、3年生担任主催の「ONE-PASS 2021 Project決起大会」を行い、自分の夢を叶えるために目標設定を行い、目標達成に向けた具体的な戦略を立てた。



●当日3年生に配布した就職関連資料

理学療法学科・作業療法学科は2学科合同で3月9日、3年生を対象に「小論文対策講座」と「履歴書面接対策講座」を実施。学生たちが真剣に講師の話を聞く様子が、画面越しに伺えた。

今回の講座を通じて、今後の就職活動の方針が定まってきたのではないだろうか。各自の目標を達成できるよう日々励んでもらいたい。

(学務課学生係 鳥海文花)

衛生委員会・防災委員会主催の研修会を開催

小田原保健医療学部衛生委員会・防災委員会主催の研修会が3月10日、開催された。

まずは、同委員である理学療法学科の須藤大輔助教が「作業姿勢と健康管理について」というテーマで講演した。普段、スクワットの多い教職員に向けて、理想的な座位姿勢や自宅でできる体幹トレーニング方法を紹介した。

続いて、小田原保健医療学部の産業医である国際医療福祉大学熱海病院のメ谷直人教授が「今年度の健康診断結果総括」、そして「新型コロナウイルス向けmRNAワクチン」について講演した。

mRNAワクチンの仕組みから熱海病院でワクチン接種した際に寄せられた質問を基に、Q&A形式で分かりやすく説明いただいた。実際にワクチン接種に携わった医師からの話を聞く良い機会となつた。

(総務課総務係 村坂美希)



●研修会

3月15日から3日間、日本災害医学会総会・学術集会が東京赤坂キャンパスでオンライン開催された。



●大会長を務めた石井教授

や感染症など災害の脅威が増すなか、チーム医療が必要であり専門家の育成が望まれると挨拶した。初日の講演では医学部感染症学の松本哲哉主任教授が、災害時の感染症対策や新型コロナウイルス感染症の見通しについて助言した。このほか学会では東日本大震災後の災害医療の進歩や新たな課題、避難所をはじめ災害時の感染対策等について多くの報告や意見交換が行われた。最後の特別シンポジウムでは石井教授が人材育成の重要性を強調し、大震災から10年の節目となった学会を総括した。

(事務部 柳辰哉)

大川キャンパス

留学生スピーチコンテストを初開催 大川シネマホールで

本学初の試みとなる留学生スピーチコンテストが、2月27日、大川市の後援を得て、大川シネマホールで開催された。このコンテストは、留学生と日本人学生が2か月の準備作業を共にし、チームでその出来栄えを競うもの。留学生の日本語力研鑽のみならず、日本人学生との交流も目的としている。

当日は出場学生29人(留学生9人/日本人学生20人)のほか、観覧学生、教職員、大川市からの来賓あわせて56人が参集した。岸拓弥・留学生サポートセンター長の開会挨拶、倉重良一・大川市長のビデオメッセージで幕を開け、「多民族国家に生まれて」「日本とミャンマーのごみの出し方の違い」等、多彩なテーマで留学生が熱弁を振るい、会場を沸かせた。最優秀賞にあたる副学長賞を受賞したのは理学療法学科2年の中国人留学生、コウイシンさん。日本語の難しさや失敗談を、ユーモアを交えて披露した。

最後に外須美夫副学長から「昨年4月以降、大川シネマホールでは映画は1本も上映されなかつたが、年度の最後に最高の作品を上映することができた」と総評をいただき、コンテストは成功裏に幕を閉じた。



(国際係 杉原活郎) ●日本人サポートと檀上にあがるコウさん

国際医療福祉大学病院

地域連携実習「市長と学ぶ地域の医療と福祉」を実施

2月5日、本学医学部臨床実習生を対象に地域医療連携実習を行った。この実習では、実際に地域と向き合う地方自治体や多職種専門職との議論を通して「地域包括ケアシステム」と「地域医療・福祉のあり方」を学ぶものである。

午前の部では、那須塩原市の渡辺美知太郎市長を招き、新型コロナウイルスに対する施策について講演いただいた。全国自治体に先駆けての取り組みが説明され、特に「初動の大切さ」に力点が置かれた。

午後の部は、地域ケア会議「にしなすケアネット」のメンバーをファシリテーターに、課題解決型のグループワークを行った。「若年認知症、育児放棄、経済的困窮」といった地域の深刻な実例を目の当たりにし、改めて現実を知るとともに、真摯な議論を戦わせていた。

実習内容は宛先を絞って動画配信され、事後アンケートでは、87%が「地域医療に关心が持てた」と回答があり、地域医療の実情を体験する大変有意義な機会となった。(総務課 中澤彩乃)



●実習の様子

国際医療福祉大学塩谷病院

BLS研修の実施

1月30日、当院の大会議室にて、BLS(Basic Life Support)研修を行った。この研修は、一次救命処置とAED使用法を学ぶ基礎研修であり、看護部・リハビリテーション室・事務の新入職員を対象に毎年実施している。講師は一瀬雅典副院長を中心に、ICLS(Immediate Cardiac Life Support)コースを受講した職員と、塩谷広域行政組合消防署の方にご協力いただき行つた。研修に参加した職員はグループに分かれ、ダミー人形を使用し、心肺蘇生法・AEDの使用方法について実践的に学んだ。参加者からは、「職種に関係なく患者様を救えるように努めることが重要である。また、日常生活の場でも医療従事者として、率先した行動力が必要であることを改めて実感した」と話していた。(総務人事課 荒巻一恵)



●心肺蘇生法に取り組む参加者たち

国際医療福祉大学三田病院

三田病院に3人の心不全療養指導士が誕生!

心不全療養指導士の認定試験に当院スタッフ3人が合格した。

高齢化に伴い激増する心不全患者に対して「循環器病対策推進基本計画」が閣議決定されたが、「心不全療養指導士」は、これに基づいて日本循環器学会が2021年から開始した認定制度だ。病態理解だけでなく、治療法・在宅医療・リハビリテーション・緩和医療などの幅広い知識が求められ、近い将来がん治療と同様に保険診療に紐づいたケア体制が整備される。

初の認定である今回の試験に当院から合格したのは、高田裕美看護師、千葉一幸理学療法士、古山雪枝看護師の3人。

複数の指導士が誕生した病院はまだ数少ない。この3人を核として院内のさまざまな部署・職種が心不全管理・ケアに関わることで、心不全患者に対してより高度なケアを提供する体制が整つた。

(肺高血圧症センター医師 田村雄一)



●3人の指導士

国際医療福祉大学成田病院

院内のシミュレーションセンターで医学部生の実習が本格的にスタート

2月より当院のシミュレーションセンターで、医学部3年生の実習が始まった。成田キャンパスと同等のハイスペック機材がそろった同センターで3~4人のグループに分かれ、さまざま

的なシミュレーターを使用し、ある日には「挿管・バッグバルブ換気」、「尿道カテーテル法」、「中心静脈カテーテル挿入」などの実習を行つた。中心静脈カテーテル挿入の実習では、エコーを使用して苦戦しながらも、静脈の位置を見つけ出し手技を行つたほか、ペアになってギブス固定や創傷処置の練習も行つていた。

医学部生たちは、板野理副院長(医学部消化器外科学主任教授)をはじめとする当院の実習指導医たちの説明に耳を傾け、真剣に実習に取り組んでいた。国内外で活躍できる医師をめざす医学部生たちの院内実習に、今後も当院シミュレーションセンターの活用が期待される。



●実習の様子



●マシンを使ったリハビリテーション

赤坂山王メディカルセンター

宿泊ドック、フレイル検査開始

昨年8月にオープンした赤坂山王メディカルセンターは、開設から8ヶ月を迎えた。上質な人間ドックをはじめ、地域の皆様に安心して気軽に利用いただけるクリニックとして、着実に歩みを進めている。

人間ドックでは、従来からご要望の多かった宿泊ドックを開始した。日帰りコースにはないOGTT(糖負荷)検査項目を加え、全コースを2日間に分け、ゆとりのある体力への負担が少ないコース設定となつていて。宿泊は、当院から徒歩圏内のホテルニュータニを利用いただき、ドックで健康チェックをしながら、リラックスした時間を過ごしていただける、心身ともにうれしいコースだ。

また、リハビリテーションセンターでは、フレイル検査を開始。コロナ禍で外出する機会が減り、高齢者の体力低下が懸念される昨今、気づかずには放置していると、寝たきりや要介護につながる恐れがある。その状態を早期に発見し、治療につなげようという取り組みだ。当院では、介護予防に有効な最新のマシンを配備しており、医師やリハビリスタッフがお一人おひとりにあつた治療を提案する。

今後も、ニーズを取り入れたさまざまな企画を発信し、多くの皆さんに利用いただける医療機関をめざしたい。

(山王病院 総務課 山本悦子)

サポートハウス那須

障がい者アート

「パラアート」作品を展示

障害者支援施設「サポートハウス那須」では、日中活動系サービス(生活介護)として食事や入浴等の提供のほか、創作的活動の機会を提供している。

これまで、サービス利用者の有志を中心となって切り絵などの作品を企画・制作し、施設の行事や市内の就労支援フェスなどで作品展示を行つてきた。



●大田原店マネージャーと並ぶ華やかなパラアートの作品

昨秋、約1年越しの折衝を経てスターバックスコーヒー大田原店への作品展示が実現し、さらに多くの方に目に触れる形で成果を披露する機会が創出された。すでに、クリスマスやバレンタインをテーマに、大田原店をイメージした切り絵の展示を行い、店舗マネージャーのお2人から、心のこもった感想とこれから活動への熱い激励をいただいた。

今後も、定期的な作品展示でスターバックスジャパン側と合意しており、3月下旬から4月にかけての展示の切り絵は、桜をテーマに、春の華やぎで店内を彩る内容となっている。

皆様もこの機会に障害者アートや障がいのある方の活動について理解を深められ、ご支援をいただければ幸いである。

(介護係長 鈴木邦英)



●ワクチン接種の様子

国際医療福祉大学市川病院

杉山大樹看護師が千葉県看護研究学会「優秀賞」を受賞

当院の杉山大樹看護師が、「継続的自動血圧測定器による加圧測定法と減圧測定方式の測定中の疼痛等に対する対比的検証」という研究課題で、第38回千葉県看護研究学会の「優秀賞」を受賞した。

この研究は、2019年の看護研究の中から院内、グループ内の選出を経て提出されたものだ。取り組んだきっかけは、杉山看護師が手術室の日常業務で患者様から受けっていた自動血圧計のカフ圧による内出血、発赤、圧痕の出現や疼痛の訴え。新規開発された加圧測定方式は、従来の減圧測定方式と比較して負担が少ないとされていたが、疼痛や皮膚トラブルに関する先行研究はなかった。そこで、院内スタッフ50人に研究対象者として協力を依頼。両上肢に新型・従来型の血圧測定器を装着してもらい、比較解析した。本研究では、加圧測定方式は従来の減圧測定法と比較して疼痛の程度が低い、また圧迫部位へ与える影響が少ないという結果が得られた。

杉山看護師は、協力していただいた方への感謝とともに、今後も看護・医療を提供する現場において、可能な限り患者様への負担が軽減できるよう考えていくとい語った。

(総務課／地域医療連携推進室 細田幸生) ●賞状を手にする杉山看護師



クラブ・サークル紹介 各キャンパスの学生たちが思い思いに活躍するクラブ・サークルをご紹介します。

ボランティア部 (大川キャンパス)

こんにちは、大川キャンパス、ボランティア部です！ 私たちは現在15人程で活動しています。具体的な活動としては、新型コロナウイルスの影響を受ける前までは、地域の小中学生に勉強を教えるほか、季節のイベントを交えた寺子屋ボランティアへの参加、定期的に大学から募集されるボランティアへの参加、医療福祉施設でのボランティアの企画などを行っていました。新型コロナウイルスが流行し始めてからは外部施設でのボランティアができなくなったため、キャンパス内で行える三密を避けた新しいボランティアを考えました。そこで始めたのが、九州地区の留学生との交流を目的とした国際交流ボランティアです。2020年度の交流会は8月と12月に2回行われ、留学生と浴衣を着て柳川川下りをしたり、Zoomを利用して福岡キャンパスと合同で各國(日本、ミャンマー、韓国、中国)の文化交流を行ったりしました。



●交流会でのおみくじ体験



●ちぎり絵年賀状作成

となり、約2ヶ月かけて原稿作成や発音練習などを行ってきました。初めてのことでのグループも手探り状態であったため、戸惑うことも多くありました。特にマスクを着けての発音練習は今の世の中ならではの難しさがありました。しかし、練習を重ねるなかで、どのグループも絆を深め、楽しみながら活動できました。

当団は、大川シネマホールで開催され、チームごとに心を揺さぶられるような感動的なスピーチや、思わず笑顔になるようなユニークなスピーチなどが披露されました。留学生のなかには母国の民族衣装でスピーチする学生もあり、異文化に触れられる機会ともなりました。また、大学や大川市からの来賓の方を迎えて、2020年度のボランティア活動のなかで最も大きなイベントとなりました。今回は三



●スピーチコンテストに向けた打ち合わせ



●スピーチコンテスト表彰式

密を防ぐために無観客での開催となりましたが、今後はもっと多くの学生や大川市の方にも足を運んでいただけるようなイベントになっていくとうれしいです。

ボランティア活動に興味のある方や大学生活で何か新しいことに挑戦したい方、私たちと一緒に始めてみませんか？ 皆さんの入部をお待ちしています！

福岡保健医療学部 医学検査学科 4年

荒木美里



広報誌 IUHW 125 2021年4月28日 発行:学校法人 国際医療福祉大学 ホームページ <https://www.iuhw.ac.jp/>